

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サンクスラボ・アフタースクール熊本		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 8日		令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 8日		令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画と日々の支援の質が高く、満足度がとても高い 保護者の皆さまから、子どもの特性をよく理解した支援や、個別支援計画の内容・実施について「はい」がほぼ満点の評価をいただいた。 「活動がとても満足」「いつも楽しみに通っている」などの声も多く、安心して利用できていることが分かった。	・子どもの特性やニーズを踏まえ、職員間で情報共有しながら個別支援計画を作成している。MTGやケース会議を定期的に行い、子どもの状況を共通理解したうえで最善の支援内容を検討している。 ・計画に沿った支援が提供できるよう、毎日の朝礼・終礼を活用して支援内容の確認と振り返りを行っている。	・個別支援計画の「ねらい」「大切にしている視点」「達成状況」がより伝わるよう、保護者向け説明を工夫する。 ・モニタリングの記録と支援の成果を可視化し、家庭と事業所が同じ視点で子どもの成長を確認できる仕組みを整える。 ・活動プログラムごとに「活動のねらい」を事前に発信し、支援の意図がより伝わるよう情報提供を強化する。
2	保護者との連絡・相談対応が丁寧で安心感が高い 送迎時の共有や面談、日々の情報発信について、高い評価が得られた。 「丁寧にその日の様子を伝えてもらい安心している」「定期的な通信が楽しみ」という声もあり、家庭との良い連携が築けている。	・送迎時の短時間でも、その日の様子や気づきを丁寧に伝えるなど、日常的な情報共有を行っている。 ・定期的な新聞発行やLINE写真共有などを活用し、活動の様子や行事予定を積極的に発信している。 ・保護者会や親子イベントを通じて、家庭支援や交流の機会をつくることに努めている。	・保護者が事業所へ気軽に相談・連絡できる仕組みの整備を検討する。(現在連絡帳アプリは双方向性を整備中) ・保護者会や親子イベントの開催を定着させ、情報提供と相談の機会をさらに充実させる。 ・情報発信の頻度や内容を整え、初回利用時から「事業所と家庭の連携の流れ」がより分かりやすくなるよう工夫する。

3	<p>活動プログラムが豊富で、子どもたちの楽しみや学びにつながっている</p> <p>活動内容が固定化しないよう取り組んでいる点について、保護者から高い評価をいただいた。</p> <p>休日活動やクッキング、外出など、多様な体験が子どもたちの満足につながっていることが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外出活動、クッキング、平日のテーマ活動など、多様なプログラムを職員全員で検討し、活動が固定化しないよう、日程を組む際も工夫している。 ・活動ごとに子どもたちの様子や保護者の声を振り返り、次の活動につなげるため日々の終礼やMTGでアイデアを出し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の「楽しさ」に加え、「どんな力を育てる活動なのか」を保護者へ分かりやすく伝える仕組みをつくる。 ・子どもが計画し実施する活動など、主体性を発揮できるような環境づくりを進める。
---	--	---	---

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>施設の広さやバリアフリーなど、環境面で改善の余地がある</p> <p>「スペースが狭い」「トイレや階段が使いにくい」「落ち着ける個別の場所がほしい」といった声があり、環境の使いやすさについて評価が分かれている状況がある。また、構造化についての課題を事業所としても認識している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2Fであり階段での移動があるため、バリアフリー化が難しい建物である。また、トイレも一つであり男性用小便器も同じ空間にあるため、狭さを感じ、使いにくさにつながっていると思われる。その他ワンフロアであり、個室がない。 ・事業所としても、空間が狭く、個室がないことに加え、構造化が十分ではないことを課題としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションや家具配置による構造化を進める。 ・視覚的な構造化（エリア表示、色分け、動線サイン）強化し、子どもが見通しを持てる環境にする。 ・中長期的には1Fフロアなどへの移転やレイアウト改善を見据えて、法人内で検討を継続する。
2	<p>地域との交流や外部機関との連携の機会が十分ではない</p> <p>地域の児童館や放課後児童クラブ、就学前の関係機関などとの連携について、保護者からは「わからない」という回答も多く、事業所としても「毎回連携できていない」「地域住民を招いた行事ができていない」と課題を認識している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の中では、地域との交流について、十分に認知されていない状況が見られており、周知不足が考えられる。 ・親子イベントは取り組み始めたが、地域住民を招くことまで至っておらず、交流・連携を更に進める必要がある。 ・交流の機会が不定期で、定着していないことが評価のばらつきにつながっていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じエリアの事業所や児童館などと話し合い、合同活動を実施し、今後の定例化を目指す。 ・就学前の関係機関へ連絡するためのチェックリストや文書テンプレートを整備し、毎年度実施できる仕組みを作る。 ・交流イベントは事前の案内に加え、実施後の様子の共有を保護者へ案内し、認知度を高めることで評価の向上も図る。
3	<p>安全・災害時の訓練やマニュアルの周知が十分に伝わっていない</p> <p>保護者からは「すべてのマニュアル内容はわからない」「避難訓練が実施されているか見えにくい」などの意見があり、評価にもばらつきが見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所では避難や訓練のマニュアルの整備は行っているものの、それらの情報が保護者へ届く仕組みが弱いことが課題と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・防犯訓練・感染症訓練などを実施した際、実施報告を新聞等で発信し、見える化を進める。 ・保護者向けに、安全マニュアルの要点を1～2枚にまとめた簡易版を毎年度配布する。 ・新年度の保護者会等で、非常時対応の流れを説明する場を設けることで、安心感につながる情報提供を強化する。